

鷲の門がよ

第5号



〒840-0804

佐賀市神野東 4 丁目 12 番 40 号

☎0952-30-8571 Fax0952-34-1042

<https://www.education.saga.jp/hp/sagashougyoukoukou-p/>

文責 山下 和幸

大健闘！ 女子卓球部 全国定通体育大会 団体ベスト16

7月25日（月）から東京都駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催された令和4年度全国定時制通信制体育大会卓球競技。佐賀県代表の本校定時制女子卓球部が初戦の京都府代表 清新高等学校に勝利し堂々の全国ベスト16入り。ベスト8をかけた栃木県代表 科学技術学園高等学校宇都宮には惜しくも敗れたものの普段の実力を十二分に発揮しての大健闘でした。8月25日（木）の夏季休業明けの開講式において全生徒に結果を報告。賞賛の拍手を頂きました。大会の結果の詳細は以下のとおりです。

【女子団体2回戦】対清新高等学校（京都府）【女子団体3回戦】対科学技術学園高等学校宇都宮（栃木県）

	⑪-4	
①吉本陽菜香	⑪-3	吉岡
③	⑪-5	0



	5-⑪	
①歳原樹果	9-⑪	中山
1	⑪-3	③
	8-⑪	

	⑪-5	
②歳原樹果	⑪-5	長谷川
③	⑪-5	0

	⑫-10	
②吉本陽菜香	⑪-8	高瀬
③	7-⑪	1
	⑪-4	

	⑪-3	
③歳原樹果	11-⑬	吉岡
伊東佑貴乃	7-⑪	平田
1	7-⑪	③

	6-⑪	
③歳原樹果	⑫-10	高瀬
上瀧悠華	5-⑪	津久井
1	11-⑬	③

	⑮-13	
④上瀧悠華	⑪-6	長谷川
③	⑪-5	0



	⑪-5	
④上瀧悠華	⑪-7	井出
2	5-⑪	③
	9-⑪	
	7-⑪	



卓球部全国大会を振り返って（顧問 原口 祐子先生）

女子は今までで一番強いチームだった。昨年女子個人で県1位、2位を取ったメンバーに、さらにその上に行く吉本さんを迎えての全国大会団体戦。どこまで行けるのが楽しみだった。結果は、3回戦敗退だったが立派なベスト16という功績を残せた。また、男子団体も男女の個人戦の4人も負けはしたが、圧倒的な差はなくいずれも惜敗。全国で通用する卓球部員だったと誇りに思う。4年生(5年生 W) 今までありがとう。奈良・東京楽しかった W。後輩の指導よろしく。

MESSAGE

メッセージ めっせーじ (広島県平和祈念式典における広島県知事のあいさつより)

8月6日広島市で開催された平和祈念式典において広島県知事のあいさつが感動的だったのでここで紹介します。平和であることが当たり前と錯覚をしている私達日本人にとって今年の夏は、ロシアのウクライナ侵攻の映像をテレビで見ながらこれが他人事ではないと感じた人も多かったのではないのでしょうか。少し難しいかもしれませんが、このあいさつ文をじっくりと読んでみましょう。平和とは何なのか、ちょっとだけ考えてみましょう。



あの時、川土手で、真っ赤に燃え盛る空の下、中学生らしい黒い人形の様な人達がたくさんころがっていた。「お母さん」。その声もだんだん小さくなり、やがて息絶えていった。

生き延びても、孤児となった子どもは、転々と身を寄せた家に居場所もなく、廊下に風呂敷を置いて着替え場所とし、被爆者の病気はうつるなど、差別に苦しんだ。

被爆者が、人生をかけてまで核兵器の廃絶を訴え続けるのは、人間らしく死ぬことも、人間らしく生きることも許さない、この原爆の、核兵器使用の現実を心と体に刻みつづけているからです。

その思いが原動力となり、今年6月、核兵器禁止条約第1回締約国会議が開催されました。被爆者の切実な思いが、世界をもう一歩前に進めた瞬間でした。

他方で、東欧では侵略戦争が勃発し、あまつさえその侵略国は、核兵器の使用も辞さないとあからさまな脅しを世界にかけられるばかりか、当事者でない国の人々さえ、身を守るためには核兵器が必要だ、と言い始めています。我々の多くが、侵略者の脅しが単なる虚勢ではなく、実際に核兵器が使用される危険として認識したのではないのでしょうか。つまり、核兵器は、現実の、今そこにある危機なのです。

ウクライナ侵略で世界が突然変わった訳ではありません。世界の長い歴史の中で、理不尽で大量の死を招く暴力は、悪により、しかし、時に正義の衣をかぶりながら、連綿と繰り返されてきました。現在の民主国家と言われる国でさえ完全に無縁とは言い難いかもしれません。

人間の合理性には限界があるという保守的な見方をすれば、この歴史の事実を直視し、これからもこの人間の性(さが)から逃れられないことを前提としなければなりません。

しかしながら、力には力で対抗するしかない、という現実主義者は、なぜか核兵器について、肝心なところは、指導者は合理的な判断のもと「使わないだろう」というフィクションたる抑止論に依拠しています。本当は、核兵器が存在する限り、人類を滅亡させる力を使ってしまう指導者が出てきかねないという現実を直視すべきです。

今後、再度、誰かがこの人間の逃れられない性(さが)に根差す行動を取ろうとすると、人類全体、さらには地球全体を破滅へと追いやる手段を手放しておくことこそが、現実を直視した上で求められる知恵と行動ではないのでしょうか。

実際、ウクライナは、いわばこの核抑止論の犠牲者です。今後繰り返される対立の中で、核抑止そのものが破られる前に手を打たなければなりません。

地球温暖化は200年、パンデミックは2年超かけて、人類の持続可能性に疑義を突き付けました。核兵器は、誰かがボタンを押せば、人類の持続可能性は30分かもしれません。

核兵器廃絶は、人類の持続可能性のために最も喫緊の課題であることを認識し、最後の核弾頭が解体・破壊され、この地球上から核兵器が完全になくなるまで休むことなく全力を尽くすことを改めてここに誓い、平和へのメッセージといたします。



TOPICS 令和4年度校内生活体験発表大会を開催しました。

学年	発表者	演題
1	樋口美央	学校をかわってから
	畑島姫蘭	佐賀商業高校定時制に入学して
	古賀悠斗	入学してから
	大石泰士	入学から三ヶ月経って
2	林 心和	アルバイトを経験して
	浜口未羽	手話を通して
3	石橋玲菜	残りの学校生活
	松尾一志	経験
	西村結里奈	資格と努力
4	歳原樹果	最後
	林 心采	スタートライン
	吉本陽菜香	真面目と悩み

令和4年9月1日（木）に校内生活体験発表大会を視聴覚室において開催しました。発表者と各演題は左のとおりです。

自分の考えや主張を人に伝えることは、とても難しいことであつ人前で話すとなるとさらにハードルが高くなります。昨日は緊張して眠れなかったとかドキドキして震えが止まらなかったとか発表後の感想が聞こえてきました。しかし、この経験がこれからの人生においてきっと役に立つと私達は確信しています。発表した生徒の皆さん、本当にお疲れ様でした。厳正なる審査の結果、4年歳原樹果さん、3年西村結里奈さんが来月22日（土）に佐賀市文化会館において開催される県大会に本校代表として出場することが決まりました。



< 行事予定 >

- 9月1日（木）校内生活体験発表大会（授業なし）
- 2日（金）SC 来校日
- 7日（水）②総探
- 8日（木）前期末考査（1日目）
- 9日（金）前期末考査（2日目）
- 12日（月）前期末考査（3日目）
- 13日（火）前期末考査（最終日）
- 14日（水）★学力向上月間 ①総探（外部講師進路指導）
- 15日（木）★学力向上月間 ①HR「夜の体育祭結団式」
- 16日（金）★学力向上月間 就職試験開始
- 19日（月）敬老の日
- 20日（火）★学力向上月間
- 21日（水）④総探（英検 IBA テスト）
- 22日（木）HR「夜の体育祭総練習」③④
- 23日（祝）秋分の日
- 26日（月）★学力向上月間
- 27日（火）★学力向上月間
- 28日（水）★学力向上月間
- 29日（木）①HR「夜の体育祭」
- 30日（金）前期終業式（授業なし）後期クラス役員生徒会役員選出

